米国20世紀初頭における幼児の音楽教育に関する研究

―*The Music Hour in the Kindergarten and First Grade*（1938）の学びの連続性に焦点をあてて―

A Study on Early Childhood Music Education in the United States in the Early 20th Century

―Continuity of Learning between Kindergarten and Elementary School of *The Music Hour* ―

福　島　さやか
Sayaka Fukushima

はじめに

米国20世紀初頭は、中等教育において1917年に、初等教育においては1921年に音楽科が成立する重要な時期である[1)]。また、1890年に5～6の大都市と25～30の小都市が学校制度の一部として幼稚園を取り入れ、1902年には公立学校幼稚園数は、440と報告されるなど、幼稚園が発展する様子もうかがえる。さらに1880年から1890年までの小学校に対する幼稚園の影響も指摘されており[2)]、幼稚園は、学校教育における授業の再編成にも影響を及ぼしている。

Birge, E.B.（1966）は、19世紀末から20世紀初頭、初等教育段階における歌曲教材について、多くの音楽教科書の出版によって質が高まっていることを指摘している[3)]。そして*The Modern Music Series*（1898）ほか10点を挙げている。*The Modern Music Series*の著者であるSmith, E.（1858-1942）は、作曲家でもあり、音楽科教科書[4)]のなかで、視唱のための楽曲、音楽の諸要素に関して学ぶための楽曲、暗唱のための楽曲などを含める一方で、子どもの生活に密接に関連した題材を含めている。美しい歌曲が所収される中で、ある楽曲の一部を記譜する頁を含める、視唱のためのトレーニング課題を含めるなど、音楽に関する基礎的な知識、技能の習得にも配慮している。このような考え方は、例えば、1920年代の教科書*Universal School Music Series*（1923）にも引き継がれている。このシリーズの第2学年用教科書*Primer*は、第1章　Rote Song、第2章　Observation Song、第3章　Sight-Singing Songで構成されている。Mark and Gary（1992）[5)]は、主目的として音楽の愛好を掲げており、Damrosch, W.が*Universal Music Series*に魅力をもたらしていることを指摘している。また、リズミカルな活動が強調され、創造性に富む、子どもたちのリズム解釈がもたらされており、音楽史、分析、傾聴が組み込まれていることを述べている。このように、領域が拡大する様子がうかがえる。

今回対象とする*The Music Hour in the Kindergarten and First Grade*（1938）第1学年用の耳の観察のための暗唱歌（Rote Songs for Aural Observation）では、169～170頁に、*The Modern Music Series*に所収されている楽曲も含まれている。第1学年用の耳の観察のための暗唱歌のなかには、Rossetti, C.（1830-1894）の詩を用いた楽曲も含まれており、歌詞の豊かさもうかがえる。

*The Music Hour*に関する先行研究や米国20世紀初頭における幼児の音楽教育に関する研究には、武内（2008）、井本（2014）などがある。前者では、鑑賞と聴取という言葉の使い分けに着目して1920年代の他の教科書との比較検討をとおして、*The Music Hour*の音楽教育観、音楽教育課程の枠組みの詳細が明らか

にされている。後者では、進歩主義幼稚園運動において重要な役割を果たしたHill, P. S.が監修した幼稚園の音楽カリキュラムの詳細が検討されている。本稿では、*The Music Hour*（1938）[6] における幼稚園および第１学年の楽曲の種類、提示方法に着目し、その特徴について明らかにする。また、幼児期から児童期への学びの連続性について明らかにすることを目的とする。

1　*The Music Hour* の構成

The Music Hour は表１のように構成されており、幼児期から、中等教育段階までの内容を含み、段階的な提示が行われている。また、*One Book Course* を含めるなどして、さまざまな学級形態に応じた提示が行われている。

表１　*The Music Hour* の構成

Grade-by-grade Series	頁数
Kindergarten and First Grade 教師用。楽曲、活動、説明が含まれている。	224 頁
First Book	112 頁
Second Book	114 頁
Third Book	160 頁
Fourth Book	176 頁
Fifth Book	192 頁
Elementary Teacher's Book *First Book* と *Second Book* の伴奏。付加的な暗唱歌。	280 頁
Intermediate Teacher's Book *Third Book* と *Fourth Book* の伴奏。	416 頁
Teacher's Guide for the Fifth Book 伴奏。	352 頁
For one-and Two-room schools and ungraded Schools	
One-Book Course	232 頁
Accompaniments for Songs in the One-Book Course	144 頁
Two-book course *Lower Grades* *Upper Grades*	 152 頁 200 頁
Accompaniments for Songs in the Two-Book Course	208 頁
Music in Rural Education One-Book Course 及び Two-Book Course のための教師用教科書。	320 頁
What the Teacher should Know One-Book Course 及び Two-Book Course の入門小冊子。	48 頁
Junior High School or Upper Grammar grades	
Music Highways and Byways *"The Bronze Book"*	256 頁
Music of Many Lands and Peoples *"The Silver Book"*	272 頁

2　*The Music Hour* の方針

序文のなかで、子どもと音楽について、以下のように示されている。(下線は筆者付記。)子どもたちにとって音楽は魅力的なもので、近い存在であることが記されている。

幼い子どもたちの遊びと想像力に富んだ世界の精神は、音楽を通して、楽しく、生き生きと表現される。音楽は、子どもたちへの魅力を促進する；日々の生活に活気をもたらす；リズミカルな表現への切望を呼び起こし、満たす；雰囲気（mood）を作り出し、発展させる；既に作り出された雰囲気を増大させる；そして社会的関係促進のために最も影響を及ぼす。

また下記のように記されており、今後の生活との関連のなかで、音楽の役目果たす役割が考えられている。

The Music Hour in the Kindergarten and First Grade のなかで、おもちゃのオーケストラとともに、歌曲、豊富な楽曲、リズム、音楽鑑賞の選集があることは、将来の音楽的成長のための基礎として、豊かな経験のためのインスピレーションをもたらすであろう。

さらに、音楽におけるリズムの魅力は、幼稚園、および第１学年で特別な重要性をもつことが述べられている。また、旋律とリズムに関して、旋律はすべてシンプルで、短く、調べが心地よく、芸術的バランスと均衡を保っていること、リズムは魅力的なもので、揺れ動くリズムは、この年齢の子どもたちにとって、適切であることが記されている。そして、*The Music Hour* が、子どもたちの生活に関連した、題材（subject）の多様性を含んでいることについても記されている。

幼稚園と第１学年（ここでは、他の初級の学年まで広げて考える。）の教員たちが、互いに、もう一方のクラスの教材と進行を知ることは、望ましいのみならず、不可欠なものと述べられている。

以上のように、子どもたちの実際の生活に沿った、豊かな音楽経験が重視されている。また、子どもたちの発達に沿った教材提示が意図されている。さらに幼稚園と第１学年は、大変近い関係であることが指摘されている。

3　*The Music Hour* における幼稚園の楽曲の特徴

表２のように、ⅠからⅣまで題材が示されている。子どもの身近にあるもの、子どもの生活に密接に関わりのあるものが示されている。Ⅴ動物の模倣では、≪ Allegro in B♭（Sparrows Hopping）≫も所収され

ている。

表2 幼稚園の題材

Ⅰ 家
Ⅱ 学校
Ⅲ 遊び
Ⅳ おもちゃ
Ⅴ 動物の模倣
Ⅵ 動物と鳥類
Ⅶ 地域生活（Community Life）
Ⅷ 自然の力
Ⅸ 妖精の世界
Ⅹ 四季の移り変わり （A）春（B）夏（C）秋（D）冬
Ⅺ 休日、祭り、お祝い
Ⅻ マザーグース
XIII リズム遊び
XIV おもちゃのオーケストラ
XV 雰囲気（子どもたちのために演奏される。）

特筆すべき点として、本楽曲はモーツァルトが6歳の時に作曲した楽曲であることが挙げられる。子どもたちとほぼ同じ年齢の時期に作曲された作品であり、このことには、子どもたちが高い興味を示すことも考えられる。括弧内に示されているように、ここでは、雀の跳ぶ様子と関連づけて学ばれる。幼稚園のⅦ 地域生活では、≪郵便配達員≫（ト長調、4分の4拍子、4小節）や≪大工≫（変ロ長調、8分の6拍子、8小節）などの曲が含まれている。Ⅹ四季についても、春夏秋冬、4つに分けて丁寧に提示されている。

当時活躍中の作曲家の作品（例えば、Miessner や Birge など）、過去の名作（例えば、≪子犬のワルツ≫[7]など。Ⅸ妖精の世界で示される。）、民謡（ロシアやドイツの民謡など。Ⅹ季節で示される。）、讃美歌（≪きよしこの夜≫Ⅺ休日、祭り、お祝いで示される。）などが所収されている。

またⅫマザーグースでは、≪ Dickory, Dickory, Dock ≫ ≪ Hey, Diddle Diddle ≫ や ≪ Little Miss Muffet ≫など）が所収されている。さらにXIIIリズム遊びは、≪ Andante ≫（軽くステップを踏む。ハイドン作曲の交響曲「驚愕」より。）、≪行進≫（走る、ビゼー作曲の『カルメン』より。）、≪ Variations on a French Melody ≫（軽く跳ぶ、跳ぶ、飛び跳ねる。モーツァルト作曲の≪キラキラ星変奏曲≫。）、≪勇敢な騎手≫（ギャロップ。シューマン作曲。）などの動きが示されている。

XIVおもちゃのオーケストラでは、J. S. バッハ作曲の≪ Little Minuet in G ≫、ビゼー作曲の『カルメン』より≪闘牛士の歌≫や、ベートーヴェンの≪トルコ行進曲≫などが示され、XV雰囲気では、シューマンの≪子守歌≫、『ヘンゼルとグレーテル』より≪ Evening Prayer ≫、グノー作曲の≪舟歌≫、ビゼー作曲の『カルメン』より≪ハバネラ≫、ハウザー（Miska Hauser）作曲の≪子守歌≫、ヘンデル作曲の『クセルクセス』より≪ラルゴ≫などが示されている。XIVおもちゃのオーケストラでは、ヴィルム（Nicolai von Wilm）の≪子守歌≫も所収されており、ハウザーの≪子守歌≫と比較もできると考えられる。

以上のように、芸術作品に触れる機会が十分に計画されていると考えられる。また、楽曲の提示方法には、次のような特徴が見られる。第1に、民謡について、民謡の曲集として配置するのではなく、季節に関連する楽曲のなかで提示されており、楽曲の内容に沿って提示されている。第2に、子守歌について、子守歌の曲集のなかに配置するのではなく、おもちゃのオーケストラや雰囲気の学びのなかで提示されている。また、『カルメン』について、≪闘牛士の歌≫はおもちゃのオーケストラで提示する、≪ハバネラ≫は雰囲気で提示する、など、楽曲の配置や提示法に工夫がみられる。第3に、XIIIリズム遊びでは、楽曲の下に、どのような動きを行うのかが明確に示されている場合も多い（例えばMarch、Lightly Stepping など）。楽曲は、声楽曲、器楽曲、交響曲、ピアノ独奏曲など、さまざまなジャンルから選曲されている。

4 *The Music Hour* における第1学年の楽曲の特徴

表3のように、ⅠからⅫまで題材が示されている。ここでも子どもが身近に感じとれる内容が含まれている。第1学年のⅡ地域活動では、≪忙しい郵便配達員≫（イ長調、8分の6拍子、8小節。古くから親しまれている英国の旋律。）、≪学校へ行く途中で≫（ニ長調、4分の4拍子、16小節。）≪農家の人≫（ハ長調、4分の4拍子、8小節。昔から親しまれている子守歌。）、

≪大工の歌≫（イ長調、8分の6拍子、12小節。）、≪航空機≫（ヘ長調、8分の6拍子、20小節。Miessner作曲。）、などの楽曲が含まれている。

表3　第1学年の題材

Ⅰ 家のまわり
Ⅱ 地域活動（Community Activities）
Ⅲ 自然と季節ごとの
Ⅳ 動物
Ⅴ マザーグース
Ⅵ 休日と特別な日
Ⅶ ゲームと遊び
Ⅷ 多岐にわたる
Ⅸ 耳の観察のための暗唱歌 （Rote Songs for Aural Observation）
Ⅹ リズム遊び
Ⅺ おもちゃのオーケストラ
Ⅻ 雰囲気（子どもたちのために演奏される。）

≪忙しい郵便配達員≫と≪農家の人≫は、明るく（Brightly）歌うよう示されている。≪学校へ行く途中で≫の楽曲は、行進の速さで演奏することが示されている。さらに≪大工の歌≫は、楽しく（Happily）歌うように示されている。≪航空機≫の歌詞は、飛行機のブーンという音から始まっており、飛行機を大きなトンボのようであると表現し、最後に“さようなら”と挨拶をして終わるような歌詞である。より子どもが身近に感じられるよう配慮されていることがうかがえる。

Ⅴマザーグースでは、≪ハンプティ　ダンプティ≫、≪コール王≫などが所収されている。また、Ⅶゲームと遊びでは、≪ Yankee Doodle ≫、Ⅹリズム遊びでは、シューベルト作曲の≪英雄的大行進≫（行進）、シューマン作曲の≪ソナチネ≫（歩く、おじぎ）、ゴセック作曲の≪ガボット≫（走る、回転する葉、又は雪片）などが所収されている。

Ⅺおもちゃのオーケストラでは、≪3人の王の行進（ファランドール）≫（ここでは、古いフランスのクリスマスキャロルとして示されている。）などが含まれている。Ⅻ雰囲気では、モーツァルト作曲の≪ Theme from Sonata ≫、ショパン作曲の≪マズルカ≫などが示されている。Ⅸ耳の観察のための暗唱歌（Rote Songs for Aural Observation）が含まれるなど、音楽の諸要素の学びが意図されていることが明白な楽曲もある。この暗唱歌の指導に関しては、堅苦しくなったり、機械的になったり、することがないようにと指示されている。[8] 子どもたちは、暗唱歌に十分に親しむことによって、音に関する特定の内容を学ぶ準備をする。まず、導入段階として、音の上行、下行を学ぶ。次の段階として、音と音との関係について、明白な繰り返しや、フレーズのコントラストなどを学んでいく。

楽曲の提示に関しては、次のような特徴が見られる。第1に、同様のタイトルの楽曲について、幼稚園で見られた郵便配達員や大工に関する歌は、第1学年では幼稚園の歌よりも小節数が増え、調号も、シャープ1つ、フラット2つの調号から、シャープ3つの調号の楽曲へと変化しており、複雑な構造に変化している。第2に、Ⅹリズム遊びについて、幼稚園では、走る、ステップを踏む、というような動きが示されていたものが、第1学年では、おじぎをする、回転する、というような動きも現れており、より複雑な動きに変化している。第3に、幼稚園では見られなかった、耳の観察のための暗唱歌が含まれている。

楽曲は現在活躍中の作曲家が作曲した楽曲、古くから親しまれている音楽、声楽曲、器楽曲など、さまざまなジャンルから選曲されている。Ⅱ地域活動の≪学校へ行く途中≫では、行進の速さで演奏することが示されている。この楽曲は、例えばⅩリズム遊びのシューベルト作曲の≪英雄的大行進≫の行進のリズムと関連しており、題材ごとの学びが、相互に関わっている。

5　*The Music Hour* における幼稚園、第1学年の学びの連続性

4で述べたように、同様のタイトルの楽曲を提示する際に、第1学年の方の楽曲構造が幼稚園で示された楽曲よりも、やや複雑になっていることや、リズム遊びの動きの種類について、幼稚園から第1学年に移るとともに、動きの種類が変化し、複雑になる様子が見られた。また、十分な音楽経験のもとに、第1学年では、耳の観察のための暗唱歌が配置されていた。5では、詩、リズム遊び、おもちゃのオーケストラ、オペレッタについて述べる。

5-1 詩

クリスティーナ・ロセッティ[9]の詩を用いた楽曲が、幼稚園、第1学年の楽曲両者に見られる。幼稚園では、Ⅷ自然の力のなかで、≪ Boats Sail on the Rivers ≫が示されている。フランスの童謡の旋律で、歌詞が歌われる。ボートは川を行き、舟は海をゆく。空をゆく雲の美しさと比較されている様子が表現されている。第1学年では、≪ Sing Me A Song ≫が、Ⅶゲームと遊びのなかで示される。3人の陽気な姉妹が輪になって踊る様子が表現されている。第1学年では、Ⅸ耳の観察のための暗唱歌で≪ Mouse Cousins ≫が示されているため、ここでは音楽の諸要素を学ぶことが意図されている旋律にのせて歌うことになる。

Boats Sail on the Rivers

Boats sail on the rivers,
And Ships sail on the seas;
But clouds that sail across the sky
Are prettier far than these.

Sing Me A Song

Sing m e a Song
What shall I sing?
Three merry sisters
Dancing in a ring,

5-2 リズム遊び

リズム遊びに関しては、ⅰ模倣、ⅱ導かれる活動、ⅲ自由な表現、ⅳ創造的な表現とともに、ⅴ歌遊びも重視されている[10]。伝統的な歌遊びも幼稚園、第1学年の両者で現れている。幼稚園では、≪ Follow the Leader ≫が、第1学年では、例えば≪ The Mulberry Bush ≫≪ London Bridge ≫などがある。これらの遊びは、さまざまなリズムを示すのみならず、グループ意識の発達にも関わっている。

5-3 おもちゃのオーケストラ

The Music Hour では、音楽が興味深いもので、彼らの生活に重要であることを意識するために、音楽を見い出し、それを通して、彼らが何かを伝えるためのものとして、音楽を感じることを導くには、学校生活の最初の2年間に、多く接する心持ちが必要不可欠であるとされている。

おもちゃのオーケストラのための楽曲は、聴取や歌唱とともに、それらを演奏することを通じて、音楽理解と鑑賞のための基礎をなすことが意図されている。絵で表現された楽譜も示されていることから、視覚的な学びにも配慮されていることがうかがえる。

幼稚園のⅫマザーグースで示されていた≪ Hey Diddle Diddle ≫ p.80が、Ⅺおもちゃのオーケストラ p.206においても提示されている。このように、同じ曲が複数の題材の中で示される場合もあり、学びの広がりに配慮されている。さらに、この楽曲は、レコード鑑賞 p.210も計画されている。

30人クラスの場合のグルーピング例

2バード　ホイッスル
3トライアングル
4ペア　ジングルベル
4ペア　ジングル　スティック
2タンブリン
1ペア　シンバル
1メイプルバー　シロフォン
1チャイニーズ　ウッドブロック
3ペア　サンドブロック
8ペア　リズムスティック
1ドラム

5-4 オペレッタ

ここでは、サーカスに行く〔第1学年の後半で実施。〕について述べる。教科書に示された楽曲を用いて、ストーリーが進んでいく。幼稚園で親しんだ曲も含まれている。30名程度の子どもたちが学ぶことが想定されている。以下のように効果的に楽曲を用いて編成されている。

第1場面　ムーアの家の中で
≪ The Street Boy's Parade ≫ p.22を聞く。

第２場面　車の中で
≪ The Traffic Light ≫ p.94、≪ The Motor Car ≫ p.116 などを用いる。
第３場面　テントの外で
≪ The Baloon Man ≫ p.39、≪ The Organ Man ≫ p.39 などを用いる。
第４場面　テントの中で
≪ The Bear ≫ p.29、≪ The Circus Parade ≫ p.34 などを用いる。
第５場面　帰り道に
≪ Playing Circus ≫ p.17 などを用いる。

おわりに

以上のように、*The Music Hour in the Kindergarten and First Grade*（1938）の、幼稚園、第１学年の楽曲の特徴、提示方法、学びの連続性に着目しながら概観してきた。全体を通して、美しい楽曲を用いて、学びが深められていることや、躍動感のあるリズムの学びが特徴であった。子どもの生活に近い題材が豊富に用意されており、なおかつ段階的な提示に配慮され、幼稚園から第１学年まで、無理なく関連楽曲へと進むことができる。

マザーグース、おもちゃのオーケストラ、レコード鑑賞において同じ楽曲が提示される例に見られるように、１つの楽曲が、さまざまな場面で、味わわれることも特徴と考えられる。また、オペレッタにおいて既習曲を多数含める例に見られるように、一度学んだ内容を、学年を超えて、別の表現で味わう提示方法も特徴の１つと考えられる。さらに、芸術作品に触れる機会を多く用意されている。

一方で、第１学年には、耳の観察のための暗唱歌を配置し、音楽の諸要素に関する学びも大切にされている。この学びは、十分に楽曲に慣れ親しんだうえで行われるものであり、機械的になったり、堅苦しくなったりすることのないように配慮して行われることが意図されていた。

方針に関する記述からは、生涯の子どもの音楽的成長を見据えた楽曲の提示や、幼稚園、第１学年の教師が互いに教材や進行を知る重要性が述べられており、幅広い視点から音楽教育をとらえることや、より具体的な内容の検討の重要性が示唆される。歌唱、楽器演奏、鑑賞、歌遊び、リズム遊び、オペレッタなど、さまざまな経験をもとに、豊かな音楽活動が計画されている。音楽的な側面はもちろんのこと、身体表現と音楽、詩の美しさと音楽にも配慮するなどして、子どもたちの学びの質を考慮しつつ、学びの連続性に配慮されていることが考えられる。

註

1）荒巻治美『アメリカ音楽科教育成立史研究』風間書房、2001, p.7
2）バンデウォーカー , ニーナ・C 著 , 中谷彪訳『アメリカ幼稚園発達史』p.205, p.215
3）Birge, E.B., *History of Public School Music in the United States,* MENC, 1966, pp. 175-176
4）例えば、Smith, E. *Eleanor Smith Music Primer,* American Book Co., 1911 などが挙げられる。
5）Mark and Gary, *A History of American Music Education,* Schirmer Books, 1992, p.187
Damrosch, W. は、ニューヨーク交響楽団の指揮者としても活躍した。
6）初版は、1929 年に出版されている。
7）ここでは、曲名“Minute”Waltz の下に括弧内に Happy Fairies と記されている。子どもたちが楽曲を味わう際に、幸福な妖精をイメージすることが考えられる。
8）McConathy, O., Miessner, W. O., Birge, E. B., & Bray, M. E.,*The Music Hour in the Kindergarten and First Grade,* Silver, Burdett and.Co., 1938, p.192
9）クリスティーナ・ロセッティ著、安藤幸江訳『シング・ソング童謡集』、文芸社、2002
10）McConathy, O., Miessner, W. O., Birge, E. B., & Bray, M. E., op. cit. , pp.193-194

文　献

井本美穂「米国の 20 世紀初期における幼稚園の音楽教育に関する研究 : *A Conduct Curriculum for the Kindergarten and First Grade* を中心に」『音楽文化教育学研究紀要』(26), pp.39-46, 2014
武内裕明「教科書双書 *The Music Hour*（1927-1931）の音楽鑑賞教育 –1920 年代の米国初等音楽教科書との比較を通じて」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域』(57), pp.389-398, 2008

本稿は、国際幼児教育学会　九州・沖縄・山口支部研究会　（2017 年 10 月 8 日　於久留米信愛女学院短期大学）口頭発表資料に、加筆・修正を加えたものである。